

令和3年度 事業報告書

PL学園中学校

1. 法人の概要

学校法人ピーエル学園

PL学園幼稚園、PL学園小学校、PL学園中学校、PL学園高等学校、PL学園衛生看護専門学校を併設する。PL学園中学校は募集定員2学級70名、3学年210名（学則定員は各80名・240名）とする。

生徒数の現況（2021.05.01時点）

1年生9名、2年生28名、3年生19名 合計56名

教員数の現況（専任7名）

校長(高校と兼務)1名、教頭(高校と兼務)1名、数学1名、理科2名、英語2名、保健体育1名、家庭科1名

非常勤9名(国語2・社会3・美術1・音楽1・技術1・数学1)

各学年主任一人、担任一人を配置する。3年生に副担任を置く。

2. 事業の概要

教育基本法及び学校教育法並びに同施行規則にしたがい、小学校における教育の基礎の上に心身の発達に応じて中等普通教育を施し、併せて設立母体であるPLの教義に基づいて、学習をはじめ人間性向上のための教育活動を行う。

英語・数学は2、3年時、習熟度別クラスで授業を行う。3年生については、夏期休暇中や（今年度はコロナ禍のため実施できず）、2学期中ほどから放課後補習授業を行う。

実技的な教科については、学習成果を写生会・合唱コンクール、百人一首大会など、学校行事を組み、クラス対抗形式で意欲的に取り組ませる。

部活動にも全教員および、教団からのボランティア指導者を配置し、技術のみならず人間づくりに成果をあげている。

3. 財務の概要

高校実質無償化の府政方針により、逆に私立中学校の授業料が逆に負担感を増した。景気低迷とあいまって、定員を大きく下回る現状では諦めざるを得ないことも出てくる。

少人数ながら基礎学力の格差があり、英数については2分割に分けて教育効果を上げる。社会科は、教団から教員免許のある指導者を派遣されている

校舎建設資金を教団から借り入れ、現在分割返済中であることも併せて、校舎修理等もままならないが、後援会からの援助金で賄うこともある。

少人数の私立小・中学校経営が大阪府で成り立つためには、現在のように教団(寮係人件費)、P L会員(指定寄付など)からの多大な支援が不可欠である。

令和3年度 事業報告書

PL学園高等学校

1. 法人の概要

学校法人ピーエル学園

PL学園幼稚園、PL学園小学校、PL学園中学校、PL学園高等学校、PL学園衛生看護専門学校を併設する。

PL学園高等学校は募集定員4学級120名、3学年360名(学則定員は各160名・480名)とする。

生徒数の現況(2021.05.01時点)

1年生20名、2年生43名、3年生46名 合計109名

教員数の現況(専任18名)

校長(高校と兼務)1名、教頭(高校と兼務)1名、国語3名、地歴3名、公民1名、数学1名、理科2名、英語2名、書道1名、音楽1名、家庭1名、保健体育3名、

非常勤理科4名、地歴1名、美術1名、数学2名、情報1名、英語1名
退職者の補充をせず、非常勤講師を雇い人件費をおさえている

2. 事業の概要

教育基本法及び学校教育法その他関係法令の規程にしたがい、中学校教育の基礎の上に生徒の心身の発達に応じて高等学校教育を施し、併せて設立母体であるPLの教義に基づいて学習をはじめ人間性向上のための教育活動を行う。

国公立コース(各学年1クラス)は一定以上の習熟度の生徒を、5教科7科目の大学受験に対応できるよう、少人数での演習を多くして学力を鍛える。

理文選修コース(各学年1クラス)は、2年次から、理系・文系それぞれの到達目標に必要な選択授業に分かれる。希望進路に進めるよう進路指導部と学年会が連絡を密に取り合い、成果を上げている。

3. 財務の概要

人件費を抑え、経費節減に努力を続けているが、入学生徒数が伸びず、予算組みに苦慮している。使用教室の限定により、耐震化範囲を狭めることを検討、実施している。受験勉強一辺倒でない、部活動で充実感を味わえる学校として生徒募集につながる魅力は備えているが、さらなる充実をはかるには、指導者のほか、選手強化のためのスポーツ奨学金も望まれている。その原資を捻出するのは容易ではない。現在のように教団(寮係人件費)、PL会員(指定寄付など)からの多大な支援が不可欠である。